

令和7年度

土成中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標 学力向上検討委員会構成

- 大志の実現に向けて自ら学ぶ生徒の育成
- 確かな学力を身につけるための分かる授業の実践

学力向上推進員
塩田 直也

委員 校長:堀江豪人 教頭:十川道雄 教務主任:坂東大輔
1年主任:山下幸 2年主任:塩田直也 3年主任:乾寛子
人権教育主事、生徒指導主事、道徳教育推進教師、
研修主任、保健主事、特別支援教育コーディネーター
学力向上学年担当:(1年)佐藤美保、(2年)塩田直也、(3年)西井和希

校長

堀江 豪人

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や試験結果の分析による到達度の見極め等から取組み状況を把握する

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や英単語の読み書き、計算などの基礎的な課題に対して意欲的に取り組める生徒が多い。 ●学力に二極化が見られる。苦手意識が強い生徒ほど学習意欲が低く、授業に集中して取り組むことに課題がある。	・授業と休み時間のメリハリがついており、スムーズに学習に入れる。 ・タブレットを用いた学習に慣れ、個々のペースでドリル学習を進められる。 ・教え合いのシステムを形成することで、自発的に学びに向かう姿勢が定着し、学力向上につながる。	・生徒会活動の一環として2分前着席を呼びかけて授業準備を促し、落ち着いて授業を始めるようにさせる。 ・タブレットの使用を促し、計算練習などのドリル学習に取り組ませる。 ・各教科でST(Small Teacher)を指名し、学び合いによる理解力向上につなげる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを伝えたり、友達の意見をしっかりと聞こうとしたりする意欲のある生徒が多い。 ●相手の表現を理解して、自分の考えや思いを筋道を立てて表現することに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを相手に分かりやすく表現することができる。 ・どんな場面でも深く考え、相応しい言葉を用いて、豊かな表現方法で話したり、書いたりできる。	・学校行事ごとにオリジナルの俳句や川柳を考えさせ、豊かな表現を学びながら思考力や表現力を向上させる。 ・全教科統一の振り返りシートを使い、考えを文章化させ、思考力・判断力・表現力の向上につなげる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組むことができる。やるべきことが理解できている場合は集中して学習ができる。 ●目を見て教師の話聞き、独自の意見も持っているが、自発的に発言する生徒が少ない。	・相手の目を見て話を聞き、集中力を保ったまま授業を受けることができる。 ・自らの課題に自ら気付き、それに沿った学習を主体的に進め、将来の自己実現のための確かな学力や発信力を養うことができる。	・相手の目を見て話を聞くように徹底させ、責任をもって自ら理解させるように促す。 ・集会などで、勉強をする意義を語り、深く落とし込む時間をとる。将来の自己実現へのつながりを感じさせて、主体的に取り組む学習者に育て生涯学習へつなげる。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

